

昭和犬衆劇集

日本演劇協會

昭和 大衆 劇集

日本
演劇
協會
編

昭和大衆劇集

定 価 七五〇〇円

平成元年二月二十五日発行

編 者 日本演劇協会
北條秀司

発行人 梅村 豊

演劇出版社 東京都千代田区神田神保町二の十一

振替 東京〇一六〇〇二 電話(二六一)二八〇六

制 作 松濤印刷・広橋印刷・関山製本

昭和 大衆 劇集

日本演劇協会編

目次

〔戲曲初演順揭載〕

昭和大众剧作家展望

海の星

花咲く港

王将

おもかげ

どぶろくの辰

遊女夕霧

明日の幸福

親子燈籠

藤野先生

北條 秀司

7

八木隆一郎

13

菊田 一夫

41

北條 秀司

117

小沢不二夫

165

中江 良夫

203

川口松太郎

261

中野 實

283

村上 元三

337

霜川 遠志

363

水沢の一夜

鰯の海

遠い一つの道

龍馬翔く

暁天の星

市松小僧の女

朝長——義朝八騎落ちの内

掲載作品作家紹介

大垣 肇

佐佐木武観

菊島 隆三

小幡 欣治

榎本 滋民

池波正太郎

野口 達二

ほんち・えいき

413

433

463

513

555

589

619

645

昭和大衆劇作家展望

北條秀司

わたしが長い間書き溜めた舞台用戯曲を、子孫のために活字本にして置こうと思つて、自主的出版をしたのが、はからずも演劇賞の対象となつた時、新聞から感想を求められて「思いがけない榮譽をいただくことになり、とてもうれしいが、もし活字本を出版していなかったら、この幸運にはあずからなかっただろうと思うと、大劇場に大衆劇戯曲を提供することを天職としている作家の不遇をいままらのごとくに考えさせられる」という小文を書いたら、新派のインテリ役者と言われている柳永二郎が感激して

「壮士芝居からすでに八十年をかぞえようとしているが、やつとこの言葉を得たことがうれしい。俳優のためにコッコツと舞台脚本を書き、日蔭の苦勞をつづけて来ながら、その名前さえわすれられている作者達の霊がどんなにか祝福していることだろう」

と新聞に書いてくれた。柳さんの頭には、有能なる大衆劇作家とその隠れた業績がどれくらい記録されていることだろう。

大衆劇畑の作家は興行者又は座長級俳優の委嘱で書くことが常道となっている。そして書き上げた脚本をそのまま舞台に使用され、わずかにその上演月の観客に観照されただけでわすれられてしまうことが通例である。すなわち、活字によつて広い社会の観照を受けることが出来ない宿命を持たされている。

無名作家の場合にはさらにそれが冷酷である。なんの報酬もなく、自主的に書き上げた自信作が、持ち込んだ興行者の抽出しに放り込まれたまま、はかない夢を見つづけているケースが少なくない。そうした不幸な作家のためにも、活字による発表機関がどうしても必要なのである。それがあれば、たとえ掲載脚本が上演用として不適当な場合にも、その作家が持つ力量を劇壇に認めさせることが出来、需要者側もそれを信頼して、別な企画を委嘱することが出来るのだ。その公的なギャラリーが日本にはないのである。いや曾てはあったのである。もしそれがなかったら、わたしなんかもどうなっていたかわからない。

わたしは恩師岡本綺堂先生と、副主宰額田六福先生とが、資金苦とたたかいながら月刊された「舞臺」という戯曲雑誌に処女作を載せていただいたお蔭で、二つの劇団から同時に上演を申込みれる幸運に浴した。その恩恵がなかったら作家としての地位を確保することは出来なかつたとハッキリ言うことが出来る。

では、なぜそのギャラリーが今日にはないのか。それは受益者の一人としていちばん心苦しい言葉である。

戦局に敗れて「舞臺」が廃刊させられて以来、しばしばわたし達はその復元をねがった。必死の努力をしたが、それを実現させることが出来なかつた。戦後、おこがましくもわたしは、恩師の遺志を継いで二度三度と「舞臺」誌の復活を試

みながら、その都度資金難にあえいで、不甲斐なくも、三号雑誌に終ることを繰り返した。その醜態をけつしてわたしは激しい世相のゆえと弁解はしない。すべては己れの非力である。

わたしは金が欲しかった。路傍に捨てられた鞆から所有者不明の巨金が発見されたなどという新聞記事を見ると、あさましく自分が拾いかけたなどと冗言を口にした。演劇協会の事業としてもそれは必須事だと思いながら、政治色の寄附は断じて受けまじと、頑なな貧乏をつづけている。

いつかも先輩の大衆劇作家が物故した時、NHKのテレビ追悼アワーで、同席者が異口同音に、一日も早く後継者を養成しなくてはならないと言ったから、わたしは「そのためには脚本のテキストが要る。その脚本集が出版されないの困っている」と言った。あとで親友の坂本朝一元会長が「たしかにそうだな。それをやらなくちゃ」と言ってくれた。が、その後NHK出版協会が大衆劇脚本集を出版してくれるという話は聞かない。それはけつして食言ではなく、大衆劇脚本集は売れないからである。

出版社にも執拗く当たっているが、恩師の嗣子が経営する良心的出版社ですら、その計算に確たる見通しを持たないような厳しい現実なのである。ああ、金が欲しい。白い金が欲しい。そして野に遺賢を求めたい。実力がありながら土俵を持たない空閑作家を多忙にしてやりたい。と、亡友利倉幸一

の遺録を継いで演劇出版社を宰領している若き親友野口達二にいつもの泣言を訴えていると、演劇協会の常任理事でもある野口君が、ともかくも一冊脚本集を出すことにしようじゃないかと言ってくれた。で、ここぞとばかり、第一集として日本演劇協会銓衡委員会選定の脚本集（脚色ものを除き）を出すことが決まってしまった。たいへんマクラが長くなったが、それがこの名著の（あえて名著と言う）出版経過である。「昭和の大衆劇集」という書名に決まったが、昭和の大衆劇作家の数は無数にあるので、逐次集を重ねて行きたいと思うが、なんとしても第一集が売れてくれなくちゃいけない。どうか御協力のほどをと希って置く。

集録した脚本それぞれの解説はほんち君に頼んだが、最長老作家の義務として昭和年代の大衆劇展望図を順不同でわたしが書くことになった。資料集収に協力してくれた友人達に感謝する。

歌舞伎畑の作家は、大正時代からの中堅作家岡本綺堂と真山青果が、依然活躍を続けた。

真山青果 『明君行状記』『頼山陽』『頼朝の死』『元禄忠臣蔵』など。

岡本綺堂 『正雪の二代目』『相馬の金さん』『朝鮮屏風』『天保演劇史』『幡随長兵衛』三部作など。

昭和初期に長谷川伸が登場した。

長谷川伸 『臉の母』『一本刀土俵入』『雪の渡り鳥』『刺青奇偶』『暗闇の丑松』など。

以上の三作家は新国劇、前進座などにも書き下ろした。

その他の作家。

永田衡吉 『源義朝』『信州義民伝』『赤穂義士審判』など。

吉田絃二郎 『二條城の清正』『熊本城の清正』『蔚山城の清正』など。

額田六福 『武田信玄』『静と義経』『君が代初吹奏』など。

新作家としては、

宇野信夫 『巷談宵宮雨』『堀部弥兵衛』『春の雷』『柳影

沢螢火』など。

村上元三 『ひとり狼』『次郎長三国志』『親子燈籠』など。

北條秀司 『狐と笛吹き』『浮舟』『建礼門院』『春日局』

など。

大佛次郎 『築山殿始末』『若き日の信長』『江戸の夕映』

など。

野口達二 『朝長』『富樫』『西郷隆盛』など。

田中喜三 『信康』『小堀遠州』など。

池波正太郎 『市松小僧の女』『あいびきの女』など。

新派畑の中堅作家では、

瀬戸英一 『つゆ空』『新四谷怪談』『二筋道』六部作など。

川村花菱 『涙の四つ辻』『三日の客』『上州土産百両首』

など。

川口松太郎 『風流深川唄』『明治一代女』『鶴八鶴次郎』

『遊女夕霧』など。

亀屋原徳 『他人の幸福』『紙芝居』『海鳴り』『貝殻島に

て』など。

中野實 『明日の幸福』『喇叭』『二等寝台車』『四十八時

間の奥様』など。

八木隆一郎 『熊の唄』『海の星』『母の絵本』『太平洋の

風』『湖の声』など。

北條秀司 『華やかな夜景』『閣下』『太夫さん』『佃の渡

し』『京舞』など。

佐佐木武観 『鯽の海』『脂粉の部屋』『牝熊』など。

矢田弥八 『春の筏』『妻の城』など。

成沢昌茂 『本所いなり湯』『浪花の恋の物語』など。

伊賀山昌三 『通り魔』など。

榎本滋民 『寺田屋お登勢』など。

新国劇畑では、

中村吉蔵 『星亨』『頭山満翁』『中江兆民』『鬼ヶ島から

来た男』など。

真山青果 『坂本龍馬』『桃中軒雲右衛門』『颯風時代』

など。

長谷川伸 『沓掛時次郎』『関の弥太ッペ』『総持寺の仇

撃『江戸の虎退治』など。

金子洋文 『剣』『髪』『浪人の群』など。

高田保 『八十八年目の太陽』『万骨の春』『日本人』『日本のお奏』など。

関口次郎 『斎藤大使』『われら失うとも』など。

北條秀司 『東宮大佐』『王将』三部作『霧の音』『松川事件』など。

大林清 『荒鷲』など。

長谷川幸延 『殺陣師段平』『桂春団治』など。

池波正太郎 『名寄岩』『牧野富太郎』『渡辺華山』『雨の首ふり坂』など。

菊島隆三 『遠い一つの道』『汚れた手』など。

榎本滋民 『八州遊俠伝』『ああ同期の桜』など。

霜川遠志 『惜別の賦』『藤野先生』など。

小沢不二夫 『おもかげ』『黒い太陽』など。

中江良夫 『どぶろくの辰』など。

東宝畑では、

菊田一夫 『がめつい奴』『まり子自叙伝』など。

北條秀司 『狐狸狐狸はなし』『夜な夜な中納言』など。

榎本滋民 『日本美女絵巻』など。

小幡欣治 『あかしたな』『横浜どんたく』など。

有吉佐和子 『香華』『華岡青洲の妻』など。

その他諸作家物。

前進座畑では、

藤森成吉 『若き日の啄木』『上野の戦争』『陸奥宗光』など。

北條秀司 『旦那隧道』

佐々木孝丸 『銀婚式』

津上忠 『坂本龍馬』『日蓮』など。

その他青果物、伸物。

喜劇畑では、

菊田一夫 『道修町』『花咲く港』『ロッパと兵隊』『墮胎

医』など。

伊馬鶴平 『桐の木横町』『猫と税金』『塀の一生』など。

島村龍三 『ルンペン社会学』『恋愛都市東京』『現代五人

女』など。

仲沢清太郎 『浮標のない港——都会』三部作など。

斎藤豊吉 『抜け裏』『女の世界』『春愁尼』など。

小崎政房 『西陣産業譜』『吸殻往生』『うぐひす日記』な

ど。

穂積純太郎 『タンポポ女学校』『大学の答案用紙』『風呂

屋の煙突はなぜ高い』など。

阿木翁助 『女中あい史』『如来の家』『秋の煙り』など。

中江良夫 『にしん場』『生活の河』など。
上山雅輔 『若様と三太夫』『髭のある坊や達』など。
金貝省三 『大仏の春』『春の入城』など。

無系列では、

大垣肇 『水沢の一夜』『幸運の黄金の矢』『望郷の歌』など。
ど。

真山美保 『馬五郎一座顛末記』『泥かぶら』など。

小幡欣治 『龍馬翔く』『風雲児』『慶安の狼』など。

野口達二 『静御前』『権八小紫』など。

堀江林之助 『雲雀』など。

古川良範 『日柳燕石』など。

知切光歳 『一切黙霖』など。

森永武治 『転勤報告』など。

郷田恵 『實川延若』『八代目市川團十郎』など。

土師清二 『主従無上』など。

大島万世 『新しき麓』など。

三好一光 『恋すてふ』三部作など。

藤島一虎 『故郷の山』など。

谷屋充 『みくにぶり』など。

舟橋聖一 『絵島生島』『女めくら草紙』など。

平岩弓枝 『ふたりぼっち』『明治の女』など。

水木洋子 『春の嵐』など。

出雲隆 『石の壺』など。

内藤幸政 『日本献上記』など。

花登肇 『粉雪の村』『万才師』『寄席囃子』など。

川島順平 『ユカリ日記』など。

淀橋太郎 『親バカ三代記』『八百八丁に雪が降る』など。

小野田勇 『おもろい女』『雪まろげ』など。

なにかと調査上の誤謬があると思われます。その際は、日本演劇協会（☎四七八局七八八）まで御教示していただくと幸甚です。

（北條）

海の星

八木隆一郎

(山口俊雄) 小頭相沢 (山村聰)

人物	赤塚 弥三郎	濱田 篤一	洋服屋 浅間	女将 あや	とめ	婆さん	漁場監督 平岡	小頭 相沢	仲仕 (数人)	小僧	近所の者 (数人)	子供 ()	老警官 ()	酌婦
----	--------	-------	--------	-------	----	-----	---------	-------	---------	----	-----------	--------	---------	----

初演 昭和14年7月明治座 赤塚弥三郎 (井上正夫) " "
篤一 (伊志井寛) 濱田万次郎 (山田巳之助) " ヤ
ス (水谷八重子) とめ (於島鈴子) 漁場監督平岡